

# 山のあなた 徳市の恋

2008(平成20)年6月1日鑑賞<TOHO シネマズなんば>

★★★



監督・編集・脚色=石井克人/出演=草薙剛/加瀬亮/マイコ/堤真一/三浦友和/広田亮平/津田寛治/黒川芽以/洞口依子/松金よね子/渡辺えり子/森下能幸/田中要次/三木俊一郎(東宝配給/2008年日本映画/94分)

……石井克人監督は「リメイク」ではなく、なぜ70年前の映画の「カバー」にこだわったの……？ この映画を楽しむには、その勉強が不可欠！ 小津安二郎と同じ年の清水宏監督とは……？ 『按摩と女』(38年)が目指したものは……？ それを草薙クンやマイコと一緒に考えながら鑑賞すれば、いろいろと面白いものが見えてくるのでは……。

## これは邦画界における特別なチャレンジ！ 特別な1本！

この映画は、草薙剛ファンが草薙剛観ただけで鑑賞する映画ではなく、石井克人監督による近年の邦画界における特別なチャレンジであり、それによって完成した特別な1本！ 特別なチャレンジとは、何と70年前に清水宏監督によってつくられた『按摩と女』(38年)をリメイクではなくカバー、つまりオリジナル版を可能な限りそのまま再現しようとしたこと。

最近、黒澤明監督の『椿三十郎』(62年)と『隠し砦の三悪人』(58年)が立て続けにリメイクされた。森田芳光監督の新版『椿三十郎』(07年)は、脚本もセリフもオリジナル版そのままに残したから、今回石井克人監督がチャレンジしたカバーと同じだが、樋口真嗣監督の『隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS』(08年)は、オリジナル版のコンセプトを維持しながら、全く新しい視点で作り直したもの。

草薙剛が主演し、33年ぶりにリメイクされた樋口真嗣監督の『日本沈没』(06年)の例を持ち出すまでもなく、今後リメイクものが次々とつくられていく可能性が高い。しかしまさか戦前の作品が、しかも業界関係者以外誰もその名前を知らないであろう清水宏監督の『按摩と女』がカバーされるとは！ ところで、清水宏監督ってどんな

人……？『按摩と女』ってどんな映画……？そして、誰が出演していたの……？

## 70年前の作品のレベルは……？

パンフレットによると、清水宏監督は同じ年に生まれた小津安二郎監督と親友同士だったらしい。また、清水宏監督の結婚相手は、何とあの大女優田中絹代とのこと（ただし2年後に破局）。また、小津安二郎や溝口健二をして「天才」と言わしめたのが清水宏監督らしい。

映画検定3級の私の知識では、日本最初のカラー映画は1951年の『カルメン故郷に帰る』。ところが、ネットの「ウィキペディア」で確認してみると、1937年に公開された『千人針』が日本最初のカラー映画らしい。他方、日本では1930年頃までは『目玉の松ちゃん』で有名な無声映画オンリーだったが、1931年の『マダムと女房』が日本初のトーキー映画として登場。したがって、『按摩と女』はそのわずか7年後の作品ということになる。

石井克人監督がそんな1938年の清水宏監督の『按摩と女』に惹かれ、そのカバーをやらうと決意した事情はパンフレットに詳しく書かれているのでそれを勉強してもらいたいが、ひと言で言えば、美術的にも衣装的にも撮影的にもすごく美しい映画になると感じたため。オリジナル版をそのままカバーし、画や音の悪さを直しキレイなカラーで撮れば今でも十分通用する映画ができるかと判断したためだ。したがって、ホントに石井克人監督の『山のあなた 徳市の恋』の出来を判断するためには、急遽DVDで発売された清水宏監督のオリジナル版『按摩と女』を観て対比しなければならない。しかし、私としてはそこまでこの作品に集中するのはムリ……？しかし、あなたがホントの草薙剛ファンで、草薙クンの良さをアピールしようと思えば、そこまで努力してみても……？

## これは、特別なパンフレット！

この映画のパンフレットは600円だが、メチャ内容豊富で勉強になるから、これは特別なパンフレット！私がそう断言する理由は、第1に70年前の作品をカバーすることの意義について、「映画の修復ができるのは、映画監督しかいない」という石井克人監督のインタビューが読みごたえがあること。第2に、これが最大の理由だが、石井克人監督による「石井克人監督による名場面解説——『按摩と女』のカヴァー方

法、各シーンに込めた思いを語る」という4頁にわたる絵コンテを交えたわかりやすい解説があること。映画の製作はこんな風にやるのだということがわかりやすく書かれており、まさに目からうろこ！ 第3は、清水宏監督のプロフィールのページで、『按摩と女』と『山のあなた 徳市の恋』のいくつかのシーンについての対比があること。これをみれば、なるほど「これがカバーか」ということが視覚でバッチリと！ 第4は、「美術：都築雄二インタビュー」で、ロケ地探しの苦労話の他、温泉街の表通りのオープンセットをつくとコストがかかるので5分の1サイズのミニチュアをつくり、グリーンバックで演じる俳優をそこにはめ込んだという撮影のウラ話(?)が説明されていること。

どのプレスシートやパンフレットにも書かれてあるプロダクションノートも、このパンフレットはリアルだから面白い。ここまで特別なパンフレットが600円だから、これは超お買い得！

## 風景優先？ それとも人物優先？

パンフレットの中には、『按摩と女』のDVD発売のためのコマーシャルとして、山田洋次監督が『演技をするな、風景の一部になれ』清水宏は演技をしたがる俳優をよくそう云って叱ったという。こうして出来た映画は限りなく私的スケッチに近く、美しい風景同様にありのままの人間の姿が優しく、ユーモラスに写し出されている」と書いている。ここには、風景優先？ それとも人物優先？ という重大な問題提起が……？

それに対応するのが、旅館鯨屋の主人を演じた三浦友和がインタビューで語る含蓄ある言葉。彼の評価では、オリジナル版で鯨屋の主人を演じた俳優は「セリフをトチリまくっている」らしい。しかし、それでも清水宏監督はオーケーを出したとのこと。それは三浦解釈によれば、「あの映画の中で、この主人はちゃんと演技をしてはいけない」らしい。そして、彼が下した結論は、「おそらく今回の三浦友和は、あのトチって芝居をしている坂本武さんにはかなわない」ということだ。

1903年に静岡県で生まれた清水宏監督は、「終生にわたって伊豆の風景と自然を愛した映画監督」とのことだが、それは『按摩と女』をカバーした『山のあなた 徳市の恋』を観ればよくわかる。オープニングの木漏れ日の美しい風景や美しい川のシーンや滝のシーン、そして5人の女学生と4人の大学生たちによるちょっとマンガチッ

クな人間関係を交えながら見せる山道や峠道のシーンの美しさは絶品。白黒で画質の悪いオリジナル版でこの美しさがどの程度表現されているかはわからないが、少なくともこれが石井克人監督がカバーしたかった映像表現の1つだということに納得！

## 徳大寺伸 vs. 草薨剛は？ 高峰三枝子 vs. マイコは？

石井克人監督が『按摩と女』のカバーを決めた時、徳市役は草薨剛だと早い段階から決めたらしい。その理由の第1は、『按摩と女』で徳市役を演じた徳大寺伸と顔がよく似ていること。そして第2に、徳市というキャラ、つまり①前向き、②元気、③女好き、④負けず嫌い、⑤短気 etc. を演じることができるのは草薨剛しかいないとホレ込んだため。さて、そんな徳市役を草薨くんはどんな風に熱演……？

他方、全く意外なキャスティングが、東京から山間の温泉場に1人でやってきた謎の女三沢美千穂を演じたマイコ。資生堂のCMなどには出演していたが、映画は本作がはじめてだから、女優デビュー作である大女優高峰三枝子のカバーをしたことになるからすごい。今ドキの日本で和風美人をしつとりと演じることができる若手女優は少ないが、さて彼女は……？

そんな女優マイコに対する興味とは別に、若い美人が1人でなぜこんな温泉宿に来ているの……？ 彼女の肩を按摩した徳市との語りいによっても、彼女がこの温泉街に何泊するのかわからないようだ。そんな中、彼女が泊まっている鯨屋で窃盗事件が発生。その時間帯に部屋にいたのは美千穂だけ。まさか、こんな美女がそんな犯罪行為を……？ そんな複雑で難しい役に、女優として初挑戦したマイコは高峰三枝子あるいは宮沢りえとまではいかないまでも、和服の似合う日本美人像をしつかりとスクリーン上に。

## 堤真一の解釈は……？

『ALWAYS 続・三丁目の夕日』(07年)、『魍魎の匣』(07年)、『クライマーズ・ハイ』(08年)などで次々といい味を出している名優堤真一が、この映画では大村研一(広田亮平)のおじさん大村真太郎役として、徳市の恋のライバル役(?)を演じている。彼がこの温泉街に研一を連れて来ている目的はイマイチあいまいだが、美千穂と知り合うことによって、1日また1日と滞在を延ばしていく様子は面白い。研一を無視して語り合う2人の姿は、1938年という大変な時代にあったにもかかわらず情

緒タップリで、恋の芽生えの予感さえも……？ さらに、美千穂との語らいの中で、少しずつ明らかになっていく彼の実像（？）によれば、美千穂が東京に戻った時の再会、そして恋の成就の可能性は……？

そんな真太郎を演ずるについて、堤真一だけはオリジナル版を1度も観ないで演じたとのこと。草薙剛もその同僚福市を演じた加瀬亮も、そして美千穂を演じたマイコも「オリジナル版を100回くらい観て、DNAに刻み込んで下さい」と言われたらしいから、堤真一だけは全く別の待遇を受けていたわけだ。したがって、堤真一演ずる真太郎だけは、オリジナル版の真太郎とどのように一致、それとも不一致……？

## ストーリー展開はあなた自身の目で……

物事には始めがあれば終わりがある。この映画は、冬場を海の温泉街で稼ぎ、春先からは山の温泉街で稼ぐマッサージ師徳市と福市が、山の温泉街にやってくるシーンから始まる。また、ストーリーの核となる登場人物である美千穂そして太郎と研一は、この2人を追い抜く馬車に乗る客で、温泉街に向かう人たちだ。そして映画のストーリーは、山の温泉街にある鯨屋を主な舞台として展開していく。すると、この映画のラストは……？ それは当然、真太郎と研一そして美千穂が馬車に乗って温泉街から去っていく姿……？

そのとおり。そんなあなたの読みは大正解。しかして、山の温泉街で展開されるストーリーは……？ それはあなた自身の目で。

2008(平成20)年6月4日記